

平成24年度大学図書館職員短期研修

# 学術情報リテラシー教育の現状： 東京大学の活動から

平成24年10月3日(京都会場) / 11月7日(東京会場)  
東京大学情報システム部情報基盤課  
学術情報チーム 成澤めぐみ

# 目次

- 学術情報リテラシー教育とは
- 大学での情報リテラシー教育
- 東京大学の学術情報リテラシー教育活動
- 東京大学の講習会さまざま  
(学内オープン・オーダーメイド・部局共催・  
分野特化型) -初年次教育との関わり

# 目次

- リテラシー用サイト運営・資料作成
- 各種広報、情報発信
- 学術情報リテラシー教育のこれから  
(学生の変化・大学の変化・ツールの変化、  
視点を変えてみる)
- おわりに

# 学術情報リテラシー教育とは

- 情報リテラシー (information literacy)  
⇒ 情報を主体的に使いこなす能力
- 「学術」情報リテラシー教育  
⇒ 「学術」に関わるコミュニティ (ここでは大学) における情報リテラシーの習得・維持・向上をめざす意図的な活動

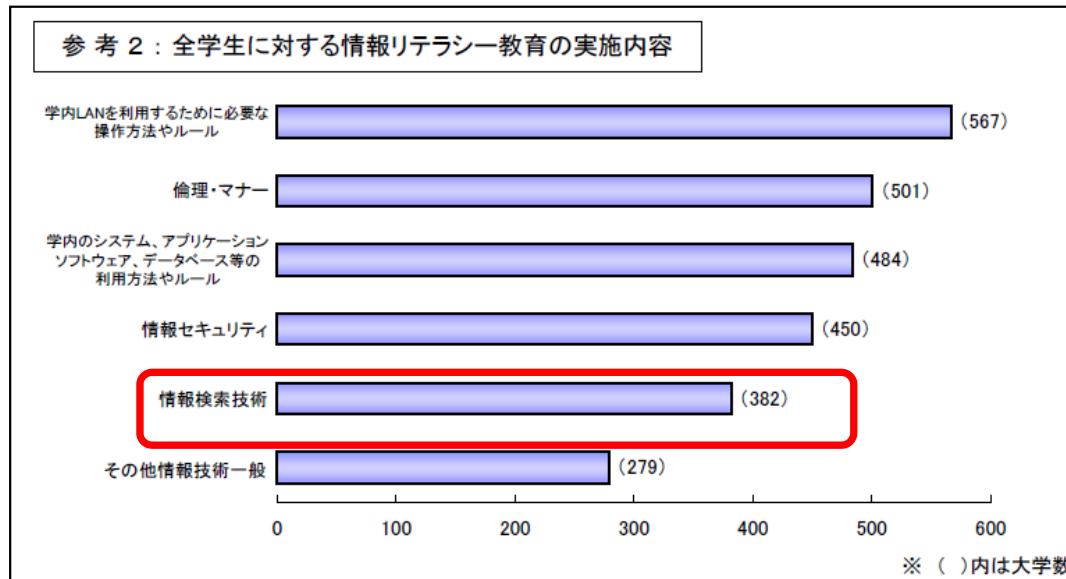
野末俊比古 平成23年度 学術情報リテラシー教育担当者研修  
“学術情報リテラシー教育の理論と動向”資料より

# 大学での情報リテラシー教育

## 近年の調査等

文部科学省 “学術情報基盤実態調査結果報告：コンピュータ及びネットワーク編”  
平成23年度 p.18 情報リテラシー教育の実施状況

- ・実施内容調査の項目は、ほぼ「コンピュータリテラシー」
- ・なかでは「情報検索技術」が大学図書館に近い項目か
- ・ “大学図書館編” には該当の調査はない



「情報検索技術」実施は ほぼ半数  
(調査対象：769大学 中 382大学)

# 大学での情報リテラシー教育

## 近年の政策等

科学技術・学術審議会 学術分科会 研究環境基盤部会 学術情報基盤作業部会  
“大学図書館の整備について(審議のまとめ)－変革する大学にあって求められる大学図書館像－”平成22年12月

- ・学生は授業を受けるだけでなく、より自発的な学習や実践の必要性が重視されてきており、**大学図書館にもその支援の「場」の提供や図書館職員等による学習支援が期待**されている。
- ・**大学図書館は**、大学における学習、教育、研究活動の変化や新しい動向に対応し、より効率的な支援を展開するとともに、特に学生を中心とする**利用者の情報リテラシー能力の向上にはより積極的に関与していくことが望まれる。**
- ・**情報リテラシー教育は**、**大学図書館が主体となって取り組むことが求められている。**

# 東京大学の学術情報リテラシー 教育活動

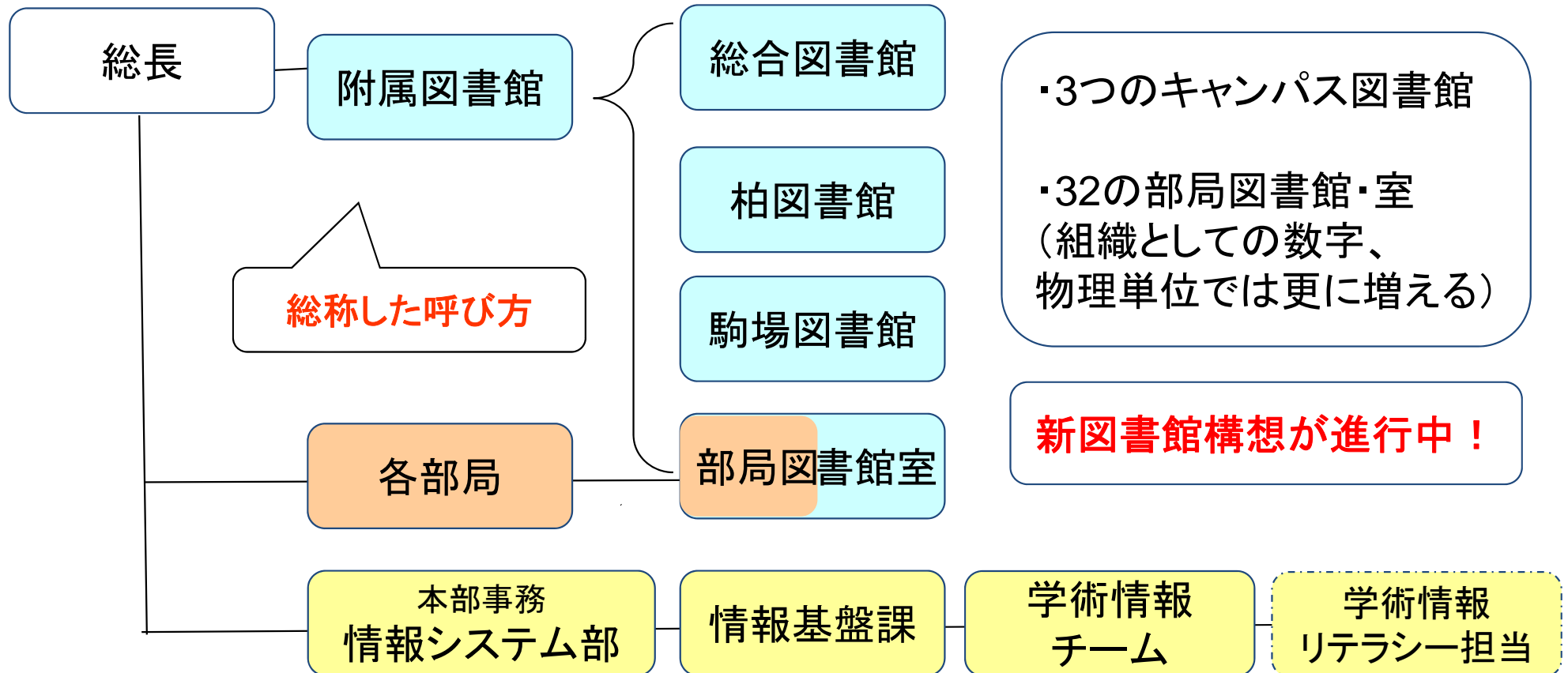
## その前に…東京大学について

- 10学部、15研究科(院)、11附置研究所、14全学センター、その他総長・総長室直轄の各機構等
- 他に各部局(学部/研究科、研究所等)附属施設多数
- 教職員7,600名、特定有期雇用教職員2,400名  
計10,000名
- 学部生14,000名、大学院生14,000名 計28,000名

# 東京大学の学術情報リテラシー 教育活動

& 学術情報リテラシー担当

## その前に…東京大学附属図書館について





# 東京大学の講習会さまざま

種類	回数	受講者数	備考
テーマ別ガイダンス	45	347	1つのテーマについて検索実習を交え解説、学内オープン
留学生向けガイダンス	2	57	留学生向けに外国人講師が担当
データベースユーザ トレーニング	17	186	専門性の高いデータベースについて提供元から講師を招聘
秘書さんのための はじめての論文の探し方	3	25	研究補助従事者を主対象として実施
オーダーメイド講習会	36	423	教員・学生等からの依頼内容に合わせて実施
図書館・室等との 共催講習会	68	723	図書館利用案内と併せて実施、特定主題分野の講習会等
合計	171	1,761	※平成23年度実績

# 東京大学の講習会さまざま

- テーマ別ガイダンス（学内オープン）
  - はじめての論文の探し方
  - RefWorksを使うには？
  - 論文投稿シミュレーション
- オーダーメイド講習会
  - 教養学部前期課程「基礎演習」- 検索実習
  - ゼミ・研究室内開催（医、工、文、教育 etc.）
  - 個人講習
- 図書館・室等との共催講習会
  - 総合図書館オリエンテーション - OPAC入門（総合図書館）
  - 医学系文献検索早わかり（医学部附属病院看護部）

- 全学横断的なものはない
- 基礎演習 - 駒場図書館ガイダンス＋簡易な検索実習（他に自由参加の駒場図ガイダンスもあり）
- 基礎演習 - 学術情報リテラシー担当による検索実習
- 各部局で独自に利用ガイダンス等を開催（学術情報リテラシー担当が一部協力する場合もあり）

# 東京大学の講習会さまざま

- テーマ別ガイダンスの策定

学内オープンなので多くの人に役立つもの

⇒文献検索入門編「はじめての論文の探し方」

あえて分野を絞ることで「自分に役立ちそうなもの」  
であると気づかせる

⇒「自然科学系のためのWeb of Science + RefWorks」

⇒「人文社会科学系のためのWeb of Science ...」

学術情報リテラシーが必要とされる場面の想定、  
把握によるニーズの掘り起こし

⇒「論文投稿シミュレーション」New!

# 東京大学の講習会さまざま

- テーマ別ガイダンスの例：

## 論文投稿シミュレーション

学内研究者は何を目的として文献検索をするのか？

論文執筆の参考とする、更にその論文を発表・投稿する



- ・執筆論文の投稿誌決定
- ・論文を雑誌投稿規定に沿った形にする(参考文献リストを、各雑誌により決まったスタイルでつけるなど)
- ・リジェクトされたら、別の雑誌に別のスタイルで再投稿

という流れのなかのツール活用方法をガイダンスとして構成

# 東京大学の講習会さまざま

## • オーダーメイド講習会の策定

要望を確認、講習内容等のすり合わせ

⇒会場、時間、参加者数、実習形式か講義形式か

⇒受講対象者の層は？ 求めるレベルは？

⇒分野の近い講習会教材を例示

⇒専門性の高いDB提供元の講師仲介

## オリジナル教材の作成

⇒研究室、関連部局サイトから例題用キーワードを拾う

⇒部局図書館のサイトからシラバス掲載図書を調べる

年度末に、次年度の  
の予定を照会

⇒オーダーメイド  
講習会の定例化

教員のロコミに  
よる新規発注

⇒1つのオーダー  
が次のオーダーへ

# 東京大学の講習会さまざま

- オーダーメイド講習会の例:

医学系研究科 医療倫理学教室 出張講習

参加者: 院生、研究員・助教等の教員 10~15名

形式: 各自持参PCによる実習、90~120分前後

希望: 医学系文献検索(日本語は不要、英語文献DBで)、  
法文献データベースの紹介(日英とも、判例も学術論文も)、  
文献管理ツールの使い方

# 東京大学の講習会さまざま

- オーダーメイド講習会の例:

医学系研究科 医療倫理学教室 出張講習

医学系英語文献検索

⇒PubMed(医学系特化型DB、シソーラスあり)

⇒Web of Science(全分野DB、引用情報をたどる、  
引用文献からの検索が可能)

同じ検索例題を使って、  
各DBの売りになる部分・  
検索方法の違いを見せる

法文献データベースの紹介

⇒Lexis.comほか

検索例キーワードは  
医療裁判に関わるもの

文献管理ツール

⇒データインポートはPubMed, Web of Science, OPACから



# 東京大学の講習会さまざま

- 共催講習会の策定

## 共催部局との役割分担

- ⇒ 図書館オリエンテーションとの組み合わせ
- ⇒ 講師、講師補助、広報、参加予約対応 etc.
- ⇒ 部局図書館職員のスキルアップ

年度末に、次年度の  
予定を照会

⇒ 共催講習会の  
定例化

## 他キャンパス利用者への対応

- ⇒ 地理的ハンディキャップの解消  
(駒場、駒場Ⅱ、柏、白金...)

共催講習会の運営手順  
を他部局にも応用

⇒ リテラシー担当を  
通したスキルの共有

## 特定主題分野の講習会

# 東京大学の講習会さまざま

- 共催講習会の例:

医学部附属病院看護部との共催

看護師向けの医学系日本語文献検索

勤務時間終了後、夕方からの開催を希望（17:30～）

医学図書館も共催に  
（講師補助を依頼）

大学院数理科学研究科図書室との共催

数学系文献データベース「MathSciNet」講習会

⇒専門性の高いDBでも、学外講師に専門性が見込めない  
場合は、可能な範囲で学内対応も

# リテラシー用サイト運営・資料作成

- 情報探索ポータルサイト「GACoS」  
(Gateway to Academic Contents System)

<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/index.html>

ネットに先立つ情報検索基礎知識、  
コンピュータリテラシーも含む

- ◆ 「ネットでアカデミック」

- ◆ リーフレット「文献探しのヒント」

⇒ 日・英・中・韓  
4ヶ国語で作成

- 動画教材「文献探しのクイックガイド」

- ◆ 講習会教材コーナーを新設

⇒ ウェブ版も  
印刷版もあり

⇩ 情報の共有 (学外含む)

# 各種広報、情報発信

- 内容

## 講習会開催案内

⇒ 共催講習会は部局内MLで集客アップ

⇒ 学内オープンでも特定分野は関連部局へ個別通知

講習会により有効な  
広報手段は異なる

## 新規サービス、メンテナンス情報等

個々の情報発信から  
「学術情報リテラシー教育」  
活動全体の認識へ

- 手段

GACoS、東大ポータルへの掲載

メールマガジン「Litetopi」

Twitterの利用

即時性によって、  
「前日までの完全予約制」  
講習会の開催告知も

# 学術情報リテラシー教育の これから

- 学生の変化、大学の変化

## 何でも「ググる」世代の文献検索

- ⇒ウェブ版のフルテキストで満足、紙資料を読む発想がない
- ⇒データベースごとの検索方法の相違に気がつきにくい
- ⇒【検索でヒットしないものは、存在していない】

⇔ 電子資料になじみにくい世代への対応も必要

## 教育・研究の国際化と社会連携

- ⇒留学生ガイダンス、多言語版資料作成
- ⇒英語論文執筆授業との関わり
- ⇒社会人院生への対応 - 夜間ガイダンス、資料のウェブ掲載

# 学術情報リテラシー教育の これから

- ネット環境、ツールの変化

「まるでGoogleのように」

次世代OPAC、Web Scale Discovery

文献管理ツールの登場と普及

WSD以外の検索手段への  
ナビゲートも必要

- 視点を定める：大学職員へのサポート

学術情報面から職員への後方支援

～大学運営の後方支援

# おわりに

- 図書館だけで完結しない 学術情報リテラシー教育へ  
～教育・研究活動との連携、大学運営の支援
- 大学にふさわしい学術情報リテラシー教育はそれぞれ異なる  
⇒「東京大学とウチは違う」で終わらせない！  
⇒小規模大学・単科大学の強みを考える

成澤 めぐみ(東京大学情報システム部情報基盤課)